

棧敷女房御返事

弘安五年二月一七日 六一歳

白きかたびら布一切給び了んぬ。

法華經を供養供養しまいらせ候に、十種くやうと申す十のやう候。其の中に衣服と申し候はなにゝても候へ、僧着のき候物をくやうし候。其の因縁をとかれて候には、過去に十萬億の仏をくやうせる人、法華經に近づきまいらせ候とこそとかれて候へ。あらあら申すべく候へども、身にいたわる事候間こまかならず候。恐々謹言。

二月十七日

日 蓮 花 押

さじきの女房御返事